

従来、縫目に関しては、機能上および外観上から各種の研究がなされて来た。

そしてそれらは、機能上では主として縫目の引張強度についてであり、外観上ではシームパッカリングの問題がその主たるものであった。

しかし縫製された被服においては、縫目部分の物性が布地部分と異なるため、被服としての外観や機能性に種々の影響をおよぼす。

たとえば、縫目のあるなしでドレープ性が変化するのなどはその一例であろう。

そこで筆者らは、これらの問題について、縫目の機械的性質に観点をおいて検討を試みようとするものである。

今回はその手がかりとして、縫目の曲げ硬さ、伸長特性および剪断特性について一連の実験を行なったので報告する。